

命守れるのは自分だけ

津波で子失った宮城の夫妻

関屋中でオンライン講演



田村孝行さんと、妻の弘美さんのオンラインでの講演を聞く関屋中の生徒＝新潟市中央区

2011年の東日本大震災の遺族から命の尊さを学ぶ授業が、新潟市中央区の関屋中で開かれた。津波で長男を亡くした宮城県の田村孝行さん、弘美さん夫妻がオンラインで講演。全校

生徒約440人に「命や人とのつながり、日常の大切さを改めて考えてほしい」と呼びかけた。9日に開かれた講演会は、田村夫妻が語り部として活動していることを報道

で知った関屋中PTAが主催した。

田村夫妻は、宮城県女川町の銀行に勤務していた長男の健太さん(当時25)を津波で亡くした。講演では震災の発生当時、支店にいた健太さんが支店長の指示で屋上に避難し、大津波の犠牲になったことを説明した。

孝行さんは「目の前に高台があり、津波が来るとい

う情報も、避難できる時間もあつた。守れた命だった」と指摘。弘美さんは「命を守るのは自分だけ。適切に判断できるよう、知識を身に付けてほしい」と呼びかけた。

参加した2年田澤了さん(14)は「能登半島地震後に話を聞いて、防災意識がさらに高まった。家族との日常を大切にしたい」と話した。